編集後記

編集委員会が新体制になって八ヶ月をへた。

この間、六回の会議が開かれている。二〇〇七年度の課題は、

①本年十一月に長崎で開催されるポンペ記念学術集会の抄録号の取扱い

②二〇〇七年度の科学研究費補助金申請に関わる二〇〇八年度以後の判型について

③日本医史学雑誌の横書きへの変更について

などで、毎回の委員会で短時間ずつではあるが各自が意見を出し合った。委員会として一致した意見、問題点などを坂井委員長が整理して、〝日本医史学雑誌の判型変更についての提言〟を作成し、昨年十一月二日付で酒井理事長の下に提出された。この文書は理事長から常任理事および役員に回覧され承認をうけ、本年度の科研費の申請がなされた。

タテ書きから横書きへの変更にもとづく頁数の変化や、それに伴う科研費の変動、会員の負担金や制作費の変化と連鎖的に学会財政がらみとなるので、一挙に変更する訳にはいかない。一応二〇〇八年からの変更をめざして繰返し委員長が提言していくこととなった。

大寒を前にして頭の痛む時節となった。この総会号はシンポ五氏、一般演題七七題、特別講演二題、会長講演と盛り沢山で、校正ミスなど出ないか大変心配している。演題原稿の取扱いに総会事務局も当っている。本誌の投稿規定も改訂され、従来別冊であった学会会報も第四号に合冊されるという改変もあり、少しずつだが改革の歩みがはじまった。

（中西　淳朗）